

もしもはかばかしく
さしつゝも祿ふの

せんのあり金ををうか
京於あゝる酒井様

大洲若ゆくみ

まは戸家かきく思城のつとめ
のひまのまゝ子つりあつともさつ
お堀の川風ふゆうーさつても宿懐の事うをたのーみ目
をたくるうーいふは身の欲ーやとりかき金まゝ小骨あり
おつゝつう娘ーさわりもし妻のや誰をつげのみふ
い束の酒をかおよ買つて見まゝ酒ーそれ少なり是

小も尾の山ちやきりハラニツツ
お土居の松け小水を何さく下陣見
まゝも山居のまゝ金谷の先一
まゝも友よひうすわんまわ陣の
まゝもこのまゝさくやあひい
まゝのゆ平まゆりあも我ま小
向もまやけー今い山ふと
いさうりねの故郷をつひ
ふま起をかけくを祿た
まんーややうおさやうー

ともを昔を登るむあるは只是をうい又といわたり
 まの人ふかきさぬ中へ一驛の宿り牙の瘡をけそゆん
 せ人目かきひいつ大瘡とんふ鼻あきこそ骨あらしめて
 東のぬ志人きくく一瘡をりみ一瘡のみ計け
 おもあふ痛ひしけ瘡のあしけ瘡の末しけく志ん志ん笑
 東のぬ瘡といわれしむもひらる鼻を瘡いしむ也いと
 内へくゆわあの名の雨川の浦へけくお途とすく小介
 是へあき斗やゆらん壽あし瘡おはす小娘らん

七五續吞姿繪

酒くみ

引り人とまらぬ舌の相ひくりし色青いまきものやわたり
 のせふ目ういあそ切つ訓一後牙のくまはし醬油の
 かある香まゆいしき人志あま酒やさめを小目をかく侍
 引く一後牙のまきしやとてあまきを青いあひまは
 うかいしき青いとさくわいあまの黄つげのさくわい酒
 をのまよ吞りけく一見まは橋あま二つ何を国是にもほの
 入るや一ほはまとう橋のすまつたのまれば夜もさくわい
 かつくはつ建とほ解るをいんしはあし一海や
 吞あれほいまの建さうつく是のやあつ一尻ををえ
 友よひおとらり一のあまきちりやちりちるをくちり